

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500607		
法人名	株式会社 ハルス		
事業所名	グループホーム はるすのお家 尾張旭		
所在地	尾張旭市庄中町2丁目4番地8		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&liyosyoCd=2374500607-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事には美味しいものや馴染みの行辞職をみんなで食べられるようにしている。それを通してご利用者の当時からうかがったり生活背景思い出を伺っている。
いつでも鍵が開いているので、自由に家族の面会もできる。
年に数回、遠出の外出を企画し普段の生活と違った時間を過せるように支援している。
最近では朝の会でご利用者が一日をどう過すのか報告しあい利用者の方の一日の過し方を伺ったりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人として当たり前の生活とはどんな事だろう。目の前に居る入居者一人ひとりが何を望んでいるか、何に困っているかを日常の中で気づきとして捉え、気づきからお手伝い出来る職員育成をしている。拘束をしない生活は家族アンケートから 訪れる人が行きやすいホームとなっている一因として窺える。訪問時に手際よく盛り付けや食器、調理器具を洗い、片付ける入居者の姿が会った。入居者や職員それぞれ得意、不得意があり互いを支えあう関係が毎日の暮らしの中で行われている。運営推進会議は勉強や交流の場となり入居者、家族、地域、市との良好な協力関係作りやホームのモニター役の機会として活かしている。電話で相談に乗ったり、市からの要請で講師を引き受ける管理者の顔は地域住民に親しみや認知度が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に掲示。 ミーティングの際に理念を提唱している。 介護計画に理念を組み込みながら意識しやすいように図っている。	管理者と職員は地域密着型について話し合う機会を持ちホーム独自の理念を掲げ、法人の介護理念と共に目に付きやすい玄関やリビングに掲示している。ミーティングで復唱する、具体的な毎月の目標を立てる等理解し易い工夫をしている。理念を踏まえつつ管理者と職員は入居者の一人ひとりの生活が成り立つ支援を話し合い考えながら共有を深め実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歩行可能な範囲内での買い物、外食喫茶店への外出を心がけながら地域の方に挨拶をする。町内会の加入により地域行事への参加のみならず公園の草取りなども参加するように動いている。野菜を頂いたり、洗濯物が飛んだときに届けていただくなど近隣との近所づきあいがある。スクールガードの登録や子供110番の登録など。	地域住民の一員として町内会に加入し、回覧板で地域活動の情報を得ており 季節の行事や催し物に参加して親しく話す機会がある。公園の草取りやゴミ置き場のネットの保管、管理は地域の一員として継続している。近隣へは行事案内の挨拶や手作りの料理をお裾分けしたり、野菜を頂いたりする交流をしている。地域住民に認知症への理解を深める講師派遣の要請を管理者は受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設は事業所回収だごみの日にゴミネットを収集所に出している。認知症の人と関わるノウハウをサポーター養成講座を通して地域へ伝えている。町内会では必ず通信を回覧する提案をし、班長さんや近隣の方には理解が得られたが全体の会としては利潤のための宣伝につながるのとことで却下されている。積極的に見学者やボランティアを受け入れながら認知症の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施内容や利用状況について報告したり話し合いをしている。 今年度の開催はないが、家族の希望する勉強会などの開催を行う。 推進会議を重ねるごとに、家族が面会時に顔をあわせて家族同士での会話ができるようになってきている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。入居者、家族、地域住民、市職員、有識者、ホーム職員の構成メンバーである。活動や入居状況、介護報酬の改定、外部評価の報告など情勢による内容となっている。又質疑応答で活発な意見やアイデアをサービスの向上に繋げている。認知症の新薬について知りたいと家族から要望があり、製薬会社の出席で勉強の場として活かした経験がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには事業所で解決できない問題を相談したりしている。 市で開催しているサポーター養成講座を職員が受講したり管理者が講師として手伝ったりしている。	定期的な運営推進会議に市の職員の参加があり意見交換や取り組みを伝えている。市主催の会議や研修に参加をしたり、講師の依頼があれば協力を惜しまない良好な関係となっている。困りごとや疑問のあるときは窓口に出向いたり 電話で相談をその都度行いアドバイスや指導を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、勉強会で具体的なくいを理解して防止に努めている。スタッフが毎日目を通す書類に身体拘束に関するものがあり、入社時に目を通してサインをしている。	玄関やリビング、ベランダの入り口は施錠していないため自由に移動が可能である。契約時に入居者や家族に拘束をしないケアのメリットを説明すると同時にリスクを予防する工夫も説明をして理解してもらっている。入居者の行動を職員の都合で制限したり、言葉の拘束について勉強と現場指導で入居者の思いを汲み取る機会として丁寧に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で虐待について学び、防止に努めている。 仕事外での交流の中で職員のストレス緩和の機会があり愚痴や悩みを相談することで防止につながっていると思う何が虐待に当たるのかを学びサインしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃から、具体的にご利用者の権利について話を聞く機会があり、勉強会などでも理解を深めている。 事務所に関係する書籍がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にはご家族に必要な説明を重ねて理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を聞いて直接支援へ反映している 玄関に拝見箱が設置されている。 意見が寄せられたときにはミーティング等で話し合い実際に解決へつなげる努力をしている。	入居者・家族の意見や思いを表せる取り組みは玄関に拝見箱の設置、運営推進会議や訪問時に積極的な言葉かけで話し易い雰囲気作りを心がけている。入居者や家族の要望・意見には丁寧に管理者が対応をして運営に反映させていることが家族アンケートからも伺える。写真にコメントを入れたホーム便りで暮らしの状況を家族に伝え好評となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は常日頃から管理者に声を掛けてもらいながら自己の悩みなどを相談したり意見を伝えている 意見や提案には耳を傾けてもらう事ができ、可能な場合はミーティングや連絡ノートで通達される。	管理者は職員の表情に心配りがあり、思いや意見を日頃から出せる声かけをしている。会議では職員の意見やアイデアを取り入れ入居者が過ごし易い居場所となりまた職員が働き易い職場となるよう意見を検討しながら反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を通して個人の目標を設定している。 代表者は管理者を通して適切な事業が運営されているかを把握したり、月に一度は事業所へ顔を出し職員へ声を掛けたりしながら必要に応じた指摘を管理者にするなどしている。 職員の経験や資格に関わらず、スタッフの努力や耳を傾ける素直な姿勢を評価してくださる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に4週間にわたる同行期間を設けている。職員の適正や能力に合わせて勉強する機会を持っている。ミーティングでの勉強会を通して学ぶ機会がある。自分の介護技術に不安があるときは先輩に見てもらい教えてもらえる。各自が向上心を持って仕事ができるように指導してくださる。講習会へも誘ってくださる。事業所には誰でも借りたり読んだりできるように書籍がある。講習会の案内はパートでも参加させてもらえる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修で事業所外の職員との交流を通じ勉強する機会がある。 他施設を行事の際に誘ったり、畑を持っている施設の芋ほりに誘ってもらうなどしている。 新規事業所の内覧会にはご利用者と出かけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを通して入居前の聞き取りを実地しながら本人の主訴を見極めて介護に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望と本人の希望をかねあいながら、家族が希望を打ち明けやすい関係作りに努めている。 また希望に関するシートを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを取り、入居にあわせてプランを立案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には教えてもらうこともあり、行事の料理やその時どうだったか等の話を聞いたり教わったりしている。 スタッフは常にご利用者の家にお邪魔している意識を持って働いている。 人生の先輩として教を請うている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者が代表で利用者の状況を説明し、ご家族の話も聞いて支援につなげている。家族の面会を喜ばれるご利用者が多いため、来ていただける雰囲気作りを心がけている。 面会時にはゆっくり過していただけるようにしている。 ご家族の悩みや喜びを共感できるようにしている。 心配なことやネガティブな相談に関しては管理者から話をするように徹底している。お便りを出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に来設してもらっている。 鍵がないことや面会簿がない事で出入りが自由。 馴染みの場所には希望があれば一緒に外出している。 友人や知人の面会も多く、来設時には歓迎し写真をとるなどしている。	家族や友人の面会が多くゆっくりと話ができる時間や場所を提供している。日頃の暮らしぶりを写真にとって居室に飾ってあり話題作りにも努めている。家族との関係は外出や外食でも良好に継続している。 野菜や果物などの産地で懐かしい話ができるお手伝いや懐かしく拘りのある店に出かけたリドライブの支援もしている。日常的に利用するスーパーや喫茶店等は馴染みの顔になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関係性ができている方には一緒に外出する機会を作ったりしている。また、関係が良好でない場合もその橋渡しをするなど職員が動いている。 ひとりになりがちなお利用者には会話の橋渡しをしたり手伝ってくださいと一緒に家事をしていただけるように声を掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が代表して行っている。退去したご家族から、その後のことで相談を受けたりすること多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをしてプランを立案するときに本人の気持ちになりみんんで検討している。 ご利用者が大切だと思うものを部屋に置いたり。不安軽減で預かるなど個々の安心に努めている。	管理者は入居前に本人や家族から生活暦や一つでも多く引き出せる面接や様式を活用している。その人らしくその日の過し方を本人から聞いたり、外出や外食など偏りがないように表を作成して掲示している。日々の会話や季節行事の話題の中から入居者が子供の頃の思いを語りその人を知る手がかりとなる。言葉の出ない方にも表情から「何を希望しているか」を本人の立場になって気づくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後など本人・ご家族との交流を深めながら理解や把握に努めている。 朝食にパンやジャムを購入している。 ご家族の命日に一緒にお供えをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	このレベルに合わせて支援しているが、全体的に落ち着きがなくなるときもある。 朝からの言動や表情で気持ちの把握に努めている。 ADLが低下したご利用者に対し、退去という提案ではなく介護職員のできる限りで二人介助をしたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度、フロアの職員全員でモニタリングを行い介護計画の見直しに取り組んでいる。 日々変化するご利用者の状況をミーティングで話し合ったり、看護師に相談している。 必要な支援を家族とご利用者にも相談している。	心身の状況や身体の変化を毎日の介護記録に残し職員間で共有している。定期的な会議やモニタリングで現状を話し合い、本人本意の介護計画となるよう入居者の言動や表情から気づいた意見や工夫を出し合っている。家族へは毎月写真やコメントの入った便りで暮らしを報告し、要望や思いを出してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の時間帯での記録のため、1日の流れを記録するようになっておりプラン緊急他と3色に分けて記録している。 入浴、トイレ介助では皮膚やつめの状態を確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別プランのため、その人のニーズに合わせて支援している。 訪問美容、訪問マッサージ、訪問歯科を取り入れ、ご家族の負担を軽減している。 運転できる職員は病院受診の協力をしている。 体調に応じた調味料の購入もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアの方も見え楽しむ時間がある。 外食先ではお店の方に配慮をしてもらったり、近隣へ出かける都度、車椅子を運ぶ、ドアを開けてもらうなどたくさんの人に助けられている。 買い物や美容院など近隣のお店を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療を尋ねている。 馴染みの医療機関に係る方もいるが、状態の変化に合わせて必要な医療のメリットとデメリットと一緒に考えている。	馴染みの主治医を継続する利用者や、ホーム提携医や往診可能な開業医に変更する利用者がある。安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に付き添いの看護師に相談したり、施設の看護師の意見を聞く事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族との話し合い、医療者との話し合い、地域連携室にも相談を重ね家族とご利用者の安心を図っている 入院時には本人や家族のストレス軽減につとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に詳しい説明をするが、実際にはその都度の対応となっている。 必要に応じて、多種機関の職員の方にアドバイスを受けて対応をしたりしているが家族と医療者との話し合いで本人の希望する支援をしている。	継続的な医療が必要になった場合や終末期については、その都度家族や医療関係者と相談を重ねて、今後の支援の方向性を話し合っている。ターミナルの経験もあり、家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置している。 基本的には管理者へ連絡し支持を仰いで対応している。 吸引機の使用方法を看護師から学んでいる 初期対応の大切さを勉強している。 また、観察点や注意点をミーティングなどで聞いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練を通して「夜間、日中」と想定をしながら、訓練終了後には反省点を各自が記録し次回につなげている。 災害時用の非常食や備品も備えている	スプリンクラーの設置や非常時の備蓄(飲料水、粥、缶詰等)、疾患や薬を記入した防災カードの備えはできている。年に4回の避難訓練のみならず、「火元探し訓練」をホーム独自で行っている。地域との協力体制は取り組む努力を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーに関わるようなことは耳元で話したりしている。 全職員(パート、常勤関係なく)ご利用者の誇りを大切に出来るように努めている。 声のトーン、言葉遣い、方言などを気をつけながらご利用者になじんで頂けるように対応している。	職員は声の大きさや言葉使いに気をつけ、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。利用者の喜怒哀楽を大切に、トラブルになりそうな場合には職員が入り問題回避している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「朝の会」を実施するようになり、ご利用者が今日の流れを理解しやすいように取り組んでいる。 朝の会では献立や外出の意思を確認しながら希望がかなうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に流れが行きがち。 居室でゆっくり過したい方は邪魔にならないようにお茶を運んだりして様子を見て関わっている。 悪天候でない限り外へ出たい利用者には付き添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好む色や形のものを選択してもらうように声を掛けている。 外出時や行事の際にはお化粧をしたり、年末には美容院にかかるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考え調理や片づけを一緒に行っている。 食事の一連の作業をご利用者と職員が共同で行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとっての食事が楽しいものになるように支援している。 冷蔵庫にある物を伝えたり、一緒に買い物に行く中で食事に対する意識付けを行っている。	希望や意向を聞きメニューを決めたり、食材も利用者と一緒に買い物に出かけているため、ユニット毎に違いはある。準備片付けは利用者の力量に合わせ、個々の力を発揮している。 職員も同じテーブルにて食事をし、家庭のような団欒風景を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べにくい食事には代替食を準備している。 水分はなかなか取れないのでジュースやコーヒーなど本人の好むものを準備したり、食事に汁物をつけたりしている。 水分摂取量や食事量のチェックを行っている。献立の内容が不安なときは上長に確認し、咀嚼や嚥下の状態に併せた食事内容を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。 自分でできる方はそばで見守り、磨き忘れ名と頃を手伝っている。 往診医にてケアをお願いしているご利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通してパターンを把握し支援している。時間を決めてできる限りトイレへの誘導やおむつ交換をしているが要領が悪くご利用者には迷惑をかけている一面もある。	羞恥心やプライバシーに配慮した位置にトイレを設置している。各自の排泄リズムをつかみ、声かけや誘導をしている。その結果、リハパンから布パンツ+パットに変更できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の人には内服も含めて支援している。便秘が及ぼす悪影響をミーティングで話し合いながら支援につなげているが水分の声かけがメインになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴できるように準備している。入りたくない日もあるが、声の掛け方や時間帯を考慮し入浴を楽しんでもらうよう努めている ゆず湯や菖蒲湯などを通して季節を感じてもらう。	二日に一回の入浴が基本であるが、お風呂が好きでほぼ毎日入っている利用者が多数いる。 重度者の介助には、複数の職員を配置し安全に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファやベッドで自由に昼寝をしたりすることができる。布団を干したり乾燥機をかけたりと気持ちよく休めるようにしている。眠ることだけに注目せずにもそもその本人の生活習慣や本人の活動状況なども考慮して気持ちよく過せる事が大切だと考えている。居室で休まれるときには室温に注意している。部屋の向きによってはカーテンで採光を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬ノートがあり、ファイルで把握しやすいようにしている。職員が翌日の薬をセットしているので、各自の把握につながっている。 薬のセットミスは重大な事故につながるため、トリプルチェックを行い、内服時には本人確認も重ねて行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や喫茶店など各自は楽しみがある。庭いじりや片付けなど好きなご利用者には制御することなく安全を確認しながら見守りしている。その方にあつた家事の手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や喫茶店、外食は日々行っている。遠足もありみんなで行きたいところを決めて出かける。 重度のご利用者も困難と決め付けず、本人が戸外で気持ちよく生き生きと過せる工夫をしつつ、家族や地域の人に協力してもらいながら支援している。 ○○のうなぎが食べたい、ケンタッキーが食べたいなど本人の細かな希望にもこたえている。	日常的に散歩や買い物、喫茶店にでかけている。利用者全員が公平に外出できるよう外出チェック表に記録し、偏らないよう配慮している。また、利用者の希望する店に行く個別支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度管理ができればご家族と相談し本人に管理してもらうこともある。預かっているお金を支払いのときに払ってもらおう。 数人の方がお金を所持しているが、使用する機械がなかなかない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望と入居時の家族の理解があれば電話は使用している。 本人宛に家族から手紙が届くことや年賀状のやり取りをしているご利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ、飾りを変えたり季節感を大切にしている。 リビングには大きな掃出し窓があり、空を見たり洗濯物を見たり生活や季節を感じる事ができる。玄関先に季節にあった置物を置いたり、スロープには野菜を育てたりしている。 動いているスタッフと座っているご利用者の体感温度の違いを学び、空気の乾燥時の注意点も学んだ。	掃き出し窓で明るく開放感があり、華美な飾りもなく落ち着いた雰囲気も漂っている。ゆとりある間取りで、のんびりとした時間を作っている。 台所からは食材を刻む音や、食事の匂いがして良いと家族アンケートにもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや畳のスペースがあり各自が気ままに自分の居場所を見つけながら暮らしている。 皆さん好きな場所でテレビを見たり日向ぼっこをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持参してもらえるようにご家族に話している。ご利用者の部屋が個室になっている。 本人の希望に応じた、またご家族が過しやすい工夫がしてある。部屋の中にはたくさんの写真を飾り、自身の暮らしを振り返れる環境を作っている。	居室の温度は職員により管理されている。壁には行事や外出の際の写真が飾られ、来訪者との話題作りや良き思い出となっている。 家族に協力を依頼して、使い慣れた家具や備品を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、歩行が不安定な人は捕まり歩ってもらっている。 夜間帯は施錠をしているが、玄関が開放されている。段差やスロープでは気をつけていただくように声を掛けている。		